

鯉淵学園 学校評価 自己評価結果（令和6年度）

1 自己評価の実施

期間：令和6年12月12日～12月27日

対象：パート及び役員を除く教職員（事務職員も含む）31名

回答数：27名

2 自己評価結果

<総括>

2022年度の自己評価結果概要との比較をすると、各大項目すべてにおいてポイントを上回った（下表参照）。

しかし、下位項目の評価からは、次の三項目について他の項目よりも低い結果となっている。

- ① 職員研修に関すること
- ② 施設・設備の整備
- ③ 中長期的財務基盤に関すること

これらのことを今後課題として解決の方途を模索し、学園全体の今後の経営、運営の改善に携わっていかなければならない。

大項目	2022年度	2024年度
1. 教育理念・目的	2.9	3.36
2. 学校運営	2.7	2.93
3. 教育活動	2.9	3.16
4. 教育成果	3.0	3.20
5. 学生支援	2.9	3.18
6. 教育環境	2.7	2.90
7. 学生の受け入れ・募集	3.1	3.25
8. 財務	2.3	2.88
9. 法令などの順守	3.0	3.38
10. 社会貢献・地域貢献	3.1	3.27
11. 学風	2.9	3.23

(1) 教育理念・目的について 3.36

- ① 学校の理念の理解 3.6
- ② 職業教育の特色の明確化 3.4
- ③ 学校の将来構想 3.4
- ④ ①②③が、学生関係業界、保護者等への周知 3.1
- ⑤ 学科の教育目標、育成人材像 3.3

- ・社会に通じる知識や技術面の教育は必要であるが、人間性などの人格教育は最も重要である。
- ・社会人にも門戸を開き、通信教育を主とし適期にスクーリングして農業実習を行う講習生の教育を充実させるとよいのではないか。
- ・社会ニーズの再把握をするべきとは思いますが、把握の手法と範囲によって、見え方が異なると感じる。地域としても、県央と県北のニーズに差は出る。
- ・鯉淵パンフレットに掲載された理事長メッセージ、学園長メッセージに沿って、教育業務に従事している。
- ・現状曖昧な部分もあるかと思うが、来年度以降に向けて検討してくださっており、明確になってきている。
- ・食と農のつながりをより強固にしていく必要があると考える。
- ・外部への周知を進める必要がある。

(2) 学校運営について 2. 93

① 運営方針の策定	3. 1
② 事業計画策定	2. 9
③ 運営組織、意思決定機能の機能	2. 6
④ 人事・給与規定の整備	3. 1
⑤ 教務・財務等の組織整備	2. 9
⑥ 業界や地域社会党の対するコンプライアンス体制	3. 1
⑦ 情報公開	3. 2
⑧ 業務の効率化	2. 6

- ・職務・職責をもっと明確にすること、部門間連携を密にすることが必要と思います。
- ・情報の適切な共有に改善の余地がある。
- ・学校運営の指す範囲次第ですが、科単位の運営であれば、私の運営の評価は2です。
- ・経費が必要なところに資金が流れていない気がします。
- ・時代の変化に対応し、柔軟に運営されていると思います。
- ・昨年度よりも、風通しがよくなっているように感じます。
- ・運営方針が確定するまでに方向性を示す情報がほしい
- ・学生収入がなく厳しい中での経営で法人化しシステム等の変更があるがついて行けるか不安である
- ・全職員、全科はもっと一致団結できると思う。まだ自分勝手、無責任に動いている姿がところどころ見られる。己を含めて改善していく必要がある。
- ・人事、予算、運営方針、問題は多岐あると思う。

(3) 教育活動について 3. 16

① 理念に基づいた教育課程	3. 4
② 学科としての教育到達レベルや学習時間の確保	3. 3
③ カリキュラムの体系化	3. 3
④ 職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法	3. 3
⑤ 関連機関・団体との連携	3. 2
⑥ インターンシップの位置づけ	3. 4
⑦ 授業評価の実施・評価	3. 4
⑧ 職業に関する外部関係者からの評価	3. 1
⑨ 成績評価等の基準	3. 4
⑩ 資格取得の指導体制と位置づけ	3. 4
⑪ 人材育成目標に基づく教員の確保	3. 0
⑫ 関連分野における業界等との連携・提供	2. 9
⑬ 職員研修（知識・技能）	2. 9
⑭ 職員研修（能力開発）	2. 2

・研修は、十分とは言えない。開発する能力は個々だが、計画的な研修計画を策定していく。
・保有する教育資源を有効活用し、効率的な教育活動が実践されていると思います。
・職員研修は来年度に向けた課題であり、受講する職員が充実感を得られる研修を検討する必要があると感じます。
・若手の教員のための研修について積極的に参加お願いしたいお願いしたい
・実習教育における知識技術向上の為、視察に行く余裕があると良いと感じる
・教職員の研修制度を充実させて欲しいと考える。
・研修を希望したいところだが、参加費、旅費等の支出削減との関係を検討していく必要がある。
・職員・教員の能力、資質向上のための取り組み及び個々人の取り組み姿勢はあまり見られないと思う。
・関連分野、業界の情勢など、SNS 等を活用し自ら得た情報しか提供できていない。外部との交流の必要性を強く感じる。

(4) 学修成果について 3. 20

① 就職率の向上	3. 4
② 資格取得率の向上	3. 5
③ 退学率の低減	3. 0
④ 卒業生・在校生の社会的な活躍・評価の把握	3. 1
⑤ キャリア形成の把握と教育の改善	3. 0

・卒業生への対応にやや課題

- ・本校に限らず、卒業生の動向把握は、学生間の SNS に頼る部分が多く、【風のうわさ】からの確認が主体的と感じる。
- ・学生指導が適切に実施されており、十分な学修成果が得られていると思う。
- ・退学者を減らすためには、入試の段階である程度ふるいにかける必要があると思うが、入学者を増やさなければならないのも実際なので、そこのバランスが難しい。
- ・取得可能な資格は限られるが、アグリにも最終目標になるような資格は必要と思う。食品栄養科が栄養士取得と同じように…
- ・資格試験対策講座をはじめ、多くの先生方の指導の下学生へのサポートがなされていると考える。
- ・卒業生の動向をより把握する必要がある。
- ・退学者を出さないよう、気を付けている。
- ・去年の学生の離職を耳にする。学園だけの問題ではないが、二年間在学後ただどこかに就職しているという気がする。

(5) 学生支援について 3. 18

① 進路・就職支援体制	3. 5
② 学生相談体制	3. 4
③ 経済的支援体制	3. 4
④ 健康管理体制	3. 2
⑤ 課外活動支援体制	3. 5
⑥ 学生の生活環境への支援	3. 2
⑦ 保護者との連携	3. 3
⑧ 卒業生への支援体制	3. 0
⑨ 社会人のニーズへの整備	2. 9
⑩ 高校・高等専修学校との連携	2. 8
⑪ 関連分野における業界との連携	2. 8

- ・卒業生への対応は個別(どこかあるか、と来校してきた卒業生等)であり、学校としてアピールをしていない。最近は、高校等との連携がおろそかかもしれない。
- ・実際の「学生支援」については把握できていない。なお、鯉淵は伝統校なので、支援体制はしっかりしているのではと考える。
- ・卒業との管理栄養士受験のためのサポートなどができるシステムがあると良い。
- ・調理実習室をはじめ、学生に教育する上で必要な環境が十分でないと思う。
- ・高等学校との連携は現時点では限定的。
- ・専門窓口の設置が望ましい。
- ・専門職員の配置が望ましい。

(6) 教育環境について 2. 90

① 施設・設備の整備	2. 5
② 実習施設、インターンシップへの教育体制	3. 0
③ 防災体制	2. 8
④ 施設の衛生観念	3. 2
⑤ 図書館や情報処理室の積極的活用	3. 0

- ・施設設備等は、計画的な更新を望む。
- ・分析機器に古いものがあるので、可能なら新しい機器や施設への改良できるとよい。
- ・【十分】かどうかは怪しいが、対応できる整備はされている。
- ・実習室の老朽化が著しく、適切な教育を行うことが難しい面がある。
- ・実習や生産活動で使用する設備が古いものが多い。
- ・教育環境は良好だと思う。
- ・防災に関する共通理解がほとんどない。
- ・新しい実習施設が望まれる。
- ・東京農大実習等の受け入れに伴い寮の設備をしっかりと整えることが必要と思う。
- ・必要な設備投資に関して、食品栄養科と総務とですれ違い、理解されないことが多々ある。
- ・建物の老朽化が著しく、不安になるところがあります。
- ・施設の老朽化もあるが現存しているもので上手く対応している
- ・あるもの、出来ることを模索しながらやるしかない。学外への実習等は各教職員の人脈に頼るしかない。

(7) 学生の受け入れ・募集について 3. 25

① 接続する機関への情報提供の取り組み	3. 1
② 学生募集活動	3. 3
③ 資格取得・就職状況の情報	3. 4
④ 妥当な学生納付金	3. 2

- ・募集に関しては、もっと積極的に働きかけてゆきたい。
- ・情報提供が個人的であり、学校としてではないと感じるので。欲深いので納付金の妥当性評価は低い。
- ・適切に行われていると思う。
- ・SNSを活用した学生募集に関して来年度もっと活発に取り組んでいきたいと考えている。
- ・受験試験の際にある程度受験者の線引きは必要と感じる。また、高校訪問も行っていると思うが県内の農業高校を始め、地元の入学者を増やす意識がないと発展しないと個人的に思う。

- ・インスタの投稿により、食品栄養科のフォロワー数が集計を取り始めてから過去最大であることは評価して良いと考える。こういった SNS を活用した学生募集に注力することは学生数を増やす方法として効果的であると考えます。
- ・時代に即した広報活動を引き続き検討する必要がある。
- ・高校教員によく会うので、情報提供している。納付金は、私学として平均的価格だと思う。
- ・現状無理かもしれないが専任担当者が欲しいところである。
- ・一番肝心要だと思う。もう勝手に人が集まることはない。

(8) 財務について 2. 8 8

① 中長期的な財務基盤の安定	2. 3
② 予算・収支計画の有効性、妥当性	2. 6
③ 会計監査の適正	3. 3
④ 財務情報公開	3. 3

- ・私立の学校で財務基盤が常に盤石、と言える学校の方が少ないと思う。
- ・理事長からもお話があったように財務基盤は非常に厳しいとの認識である。
- ・今後の学生への教育が十分にできるのか非常に不安を感じる。
- ・ここ数年(度)の(正確な)収支状況がわからない。
- ・財務基盤、予算・収支計画等、わからないところがある。ただ、安定している、健全経営しているとは思えない。

(9) 法令などの順守について 3. 3 8

① 法令、設置基準等の順守と運営	3. 3
② 個人情報保護	3. 4
③ 自己点検・自己評価	3. 4
④ 評価結果の公開	3. 4

- ・評価面は今後の課題と思います
- ・食品栄養科において栄養士養成に係る法について、より適正な運営に向けて準備中。
- ・適切に実施されていると思う。
- ・法令順守に関しては、上司の指示のもと適切に行われていると考えている。至らない部分があれば、改善していく所存である。

(10) 社会貢献・地域貢献について 3. 2 7

① 社会貢献・地域貢献	3. 4
② 学生のボランティア活動	2. 9
③ 地域に対する公開講座、教育訓練の受託	3. 5

- ・受入れ体制を充実させ、さらなる受入れもありと思う。
- ・ボランティアの奨励はしていると思う。

- ・十分貢献していると思う。
- ・イベントの協力や茨城県栄養士会受託事業への参加を行っている。
- ・貢献はできているが、時間的余裕があれば尚可。
- ・地域・社会への貢献はもっと必要だと思うし、農業、栄養という分野はもっと地域・社会への貢献が出来るポテンシャルがあるはず。そういったことからの改革が必要。

(11) 学風について 3. 2 3

- | | |
|-----------------|------|
| ① 伝統を受け継いだ学風 | 3. 4 |
| ② 独自の確固たる学風 | 3. 4 |
| ③ 教員・学生共に学びに意欲的 | 2. 9 |

- ・意欲喚起と伝統に重きをおくこと。何を伝統とするかを再考してもいいと思う。
- ・栄えある過去の学風を受け継ぎつつ、新しい学風の確立が望まれる。
- ・学風を今風に変えていないため、すべてを受け継いではいない。意欲的ではない方もいると感じる。
- ・たいへん良いと思う。
- ・学生と職員の距離が近く色々相談しやすいところがある
- ・皆様が作り上げてきた学風を感じることができる。真生鯉淵にもありますように責任・団結・信頼のスローガンのもと運営されていると考える。